

“MADE IN SHIBUYA”

今も、昔も、新しいファッション文化を発信しつづける街、渋谷。
渋谷ファッションウィークアンバサダー・Dream Amiさんが語る“MADE IN SHIBUYA”

渋谷から始まり、渋谷で磨き上げた Dream Amiさんのファッション

- Dream Ami さんにとって渋谷とはどんな場所ですか？

私のファッションの始まりの場所です。中学2年生の時に上京して、初めて渋谷に行った日から、本当によく渋谷に通いました。メンバーと一緒にSHIBUYA109でお買い物したり、プリクラを撮ったり…。渋谷は流行を作っている場所という印象で、自分達だけで渋谷に来たら、大人だと感じていました。そのぐらい憧れの街でしたね。渋谷が一番おしゃれで、一番イケてる場所で、その当時はもう渋谷がすべてでした(笑)。

- 大人の女性となった今は、渋谷をどんな風を感じていますか？

特別な場所だった若い時を経て、今は生活の一部のような場所になっている感じです。とりえず渋谷に行けば何でも揃ってしまうので買い物はほぼ渋谷になりました。20代になって行動範囲が広がると、渋谷以外の様々な東京を知るようになりましたが、東京って色々なものが混ざり合った都市ですよね。その上で改めて渋谷を見てみると、様々なカルチャーが混ざり合っていて、まさに東京の縮図だなと感じます。老舗や専門的な店というよりは、それらの入り口が集まっているような街で、それが渋谷の魅力だと思います。歩いてすぐの距離に、ファッションから雑貨、家具、家電、映画館など、バラエティ豊かに揃っている街なので「サングラスを見に行こうかな」と思っていると「あ、家具屋さんがあったな。電器屋さんも行きたいな…。」となってしまい、いつも時間が足りなくなって困るんです(笑)。

- どんなファッションも着こなすセンスはどこで磨かれたのでしょうか？

そんな自覚は全くないのですが、もし考えられるとしたら、やっぱり渋谷のファッションをひと通り経験したからでしょうか。若い頃の自分にとって、渋谷は手軽にオシャレな物が買える場所でした。でも学生時代はお金に余裕がなく、余裕がないながらも厳選して選んだ服で、いかにファッションを楽しむかが勝負でした。お金があったらあれもこれも買えるのに、と当時は思いましたが、その時の経験でしっかりセレクトする力がついたのかもしれません。たくさん失敗もしましたが(笑)。それだけじゃなく、お仕事柄、色々な洋服を着させていただくうちに、自分に似合うものが分かってきたのもあると思います。なので、これが流行っているから着ようということはあまりなく、自分に合うかわないかで選ぶことがほとんどです。ブランド名で選ぶこともないので、ファストファッションとハイブランドをミックスすることもよくありますね。

- Dream Ami さんにとって「ファッション」とは？

自己表現をしたり、自分らしさを確認する大事な要素のひとつと感じるようになりました。同時に、無限にあるファッションの選択肢のなかから、自分はこう見られたいからこれを選ぶということは、とても勇気がいるんだなとも感じています。年相応のファッションもひとつの選択肢だと思うのですが、私は、年齢に関係なく好きなもの、着たいものを選んでいきます。自分のファッションを曲げたら自分が自分でなくなる気がするので、ステージ衣装なども、スタイリストさんに「こういうイメージでいきたい!」と自ら提案させてもらっています。私は大人になってもピンクや柄物が好きですし、これからも着たいです。それを堂々と着られるように頑張ろう!というモチベーションにも繋がっています。

- その代わりに音楽にも通じるものがありますか？

そうですね。ファッションも音楽も流行にはあまり流されないタイプなので、それがDream Amiらしいと楽しんでもらえたら嬉しいです。10月24日にリリースする新曲「Wonderland」は、まさに私が思うDream Amiのど真ん中。とても自分らしい楽曲に仕上がっています。

- 作詞も手掛けるなど、ご活躍の範囲を広げていらっしゃいますが、今後やってみたいことはありますか？

ファッションブランドを立ち上げて「年齢を問わず女性に着て欲しいファッション」を提案してみたいです。あえて大人っぽいブランドとコラボもしてみたいですね。

- 最後に、渋谷ファッションウィークアンバサダーとしてメッセージをお願いします。

私のファッションの始まりは渋谷でした。誰かにとっても渋谷がそういう街であつたらいいなと思っています。また、渋谷の街の魅力や渋谷らしさを、私自身もこのファッションウィークを通して改めて見つけてみようと思います。SHIBUYA RUNWAYでは、自分らしいファッションをお見せしたいと思っていますので、そちらも楽しみにしててくださいね。



Dream Ami

2002年dreamiに新加入し、デビュー。2011年より、ガールズ・エンタテインメント・プロジェクト“E-girls”の中心メンバーとしても活動開始。音楽活動のみならず、多数のテレビ出演やラジオのレギュラーパーソナリティを担当するほか、2015年には「ドレスを脱いだシンデレラ」で、E-girls初のソロデビューを果たす。また2016年公開ディズニー映画「ズートピア」の日本版主題歌「トライ・エヴリシング」を担当。作品内で同曲を歌うズートピアの美しき実力派ポップスター「ガゼル」の日本語吹替にも挑戦した。そして2017年3月22日発売のシングル「はやく逢いたい」が、映画「ひるなかの流星」の主題歌として起用され、自身で作詞を手掛け多くのリスナーの共感を得る。2017年6月E-girlsが「E.G.family」という新たなガールズ・エンタテインメント・プロジェクトとして進化し、E.G.familyの一員として、Dream Amiのソロ活動に専念。同年10月4日に1stアルバム「Re: Dream」をリリースし、11月からはソロ初ツアー「Dream Ami 1st Live Tour 2017 ♡Re: Dream」を開催した。そして2018年4月18日、ソロ6枚目シングル「アマハル」をリリース。本人出演のブルボン「おいしいココナッツミルク」のCMソングにも起用されている。

Dream Ami の新曲「Wonderland」10/24(水)リリース。

10/26(金)公開の映画「オズランド 笑顔の魔法おしえます。」主題歌に決定。映画を鑑賞し、Dream Ami 自ら作詞を手がけた今回の書き下ろし主題歌「Wonderland」は、リズムに合わせて踊り出したいようなキャッチーな曲調と、頑張る全ての人の背中を強く押すポジティブな歌詞が、映画の世界観にピッタリとマッチ。歌詞に登場し曲名にもなっている「Wonderland」が、波瑠さん演じる主人公の波平久瑠美と、西島秀俊さん演じる「魔法使い」小塚慶彦たちが働く映画の舞台となる遊園地とリンクし、映画を更に盛り上げます。

Dream Ami
オフィシャルInstagram

